



2022年1月15日 発行

2022年冬号

<第53号>

編集・発行 / 社会福祉法人ワークスユニオン 代表 / 池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881



「僕がしるんや」

僕は仕事を頑張っています。ナットまきの仕事と、ナット並べの仕事を頑張っています。和の休けい時間中にもやっています。

和でも走っています。家に帰っても走っています。走るのがとても大好きです。この前、スポーツフェスタに行っても楽しかったです。

土曜日日曜日は、お昼から近くを散歩しています。三十分ちよつとかけて散歩しています。夕方には、公園までも歩いています。たまに、よか活動で、どつかええとこつれていってもらってよく頑張っています。海遊館に行っても楽しかったです。

僕は走るのがとても大好きです。作業するのがとても楽しいです。これからも和で一生けんめい仕事を頑張っていきます。これからもよく走っていきたいです。

南野 隆一

守るべきもの 変えるべきもの ②

前回の機関紙に、「守るべきもの 変えるべきもの ①」の文章を掲載して、はや一年の月日が流れました。次号を早く発刊したいとの思いは強かったのですが、「新型コロナウイルス感染症」が、全世界で蔓延し、大阪においても何度となく「緊急事態宣言」が発出され、不安がぬぐえない状況が継続しており、機関紙にて皆様にお伝えできそうな目新しい展開もなく、「コロナで大変です」との暗い話ばかりお伝えしたくないので、今までの次号を割愛いたしました。フクチンや治療薬の進展で、一日も早く安心できる日常を取り戻せることを期待しております。

故山川氏が提唱した、「日中面も生活面も含めた生涯に亘る支援の提供を目指す障害の有る人の地域生活の最後の砦」との想いとその理念は不変。

この部分が変わると利用者も保護者も戸惑うし、ワークスユニオンが別のものになってしまう。

私(南石)が引退しても必ず継承してもらおうので、保護者の皆さんご安心ください。

私もすでに六十五歳、後進に譲る準備もしなければ

②

用者の獲得が進まない場合、将来的には利用者の対象範囲を少し広げることも検討しなければならぬのかもしれないが、今暫くは様子を見た上で保護者の皆さんとも充分協議し判断していきたい。

「日中支援」

現在就労継続支援B型事業所として、ワークス集(施設外就労現場 ワークス歩)とワークス翔(施設外就労現場 輝)の二事業所四現場で運営しているが、法人全体でみると利用者の人数が定員割れしている。さらに、本年度より施設外就労加算が廃止され、事業運営が厳しくなっている。

利用者の確保が困難な状況を考えて、今後特色のある事業運営を目指さなければならぬ。

ワークスユニオンの利用者は、高齢化も進んできているので、状態像の似ているハッピーリタイヤを迎えた利用者の獲得に向けた取り組みに力を入れたい。

生活介護事業所としては、高齢期を迎えた利用者が中心の「匠」と、自閉的な傾向の強い利用者が中心の「和」の二事業所となっているが、送迎を行っていない「和」の利用者が少なくなっている。

生活介護事業の場合、送迎を希望される方が多いので、「和」にも送迎を検討し、従来のワークスユニオンの利用者より少し障害の重い方にも支援の範囲を広げ、日中支援で百名程度の利用者確保し、安定的な運営ができるようにしたい。

「生活支援」

国は、「グループホーム」の制度変更を目指しており、現在の「介護サービス包括型」「外部サービス利用型」「日中活動サービス支援型」の三類型を、「外部サービスの利用型」と「日中活動サービス支援型」を統合した、「介護給付」に位置付けたグループホームと、有期限で将来の単独生活を目指すため「訓練等給付」のまま

運営するグループホームの二類型とする予定のようだ。財政難の国は、障害福祉サービスの効率化と経費の削減を目指していると考えられるので、障害のある人の地域生活の様態は、かなり変わってしまうのではないかと危惧をしている。

支援の効率化を目指す為、再編により建物の定員枠が、緩和される可能性も否めないし、介護保険のグループホームと同様に、障害分野でも二十四時間の支援機関と位置付けられる可能性もある。更に「身体介護」等の併給にも制限が出る可能性も強い。

保護者の方々の高齢化等を考えると、「生活支援」へのニーズは今後も増加すると考えるので、制度変更の詳細を見極めた上で、私たちの支援のスタンスに適した新たな建物を確保し、グループホームは今後も拡充したいと考えている。

(南石)

森川 絢さんへ

令和3年10月27日、ワークス集を利用されていた森川絢さんが交通事故で逝去されました。森川さんは、心優しく真面目で、細かい個所のチェックが得意でした。数年前にダイエットを決意され、35キロ体重を落とし保たれていました。43歳で旅立たれてしまった森川さんを偲んで、哀悼の意を表したいと思います。

▼大好きな森川絢へ。一番若いのに天国に行っちゃうなんてなあ。心よりご冥福をお祈りいたします。ありがとうございます。

井上剛

▼森川君へ8年間一緒に楽しく作業やったこと、旅

行や食事会に行ったことをわすれないです。8年間ありがとう。

大住優子

▼USJでいっしょに楽しい思い出ができて良かったです。集やポウリングでもう会えなくなり、とても寂しいです。大西美紀

▼カーテンと線はかりの仕事がんばってました。こんなわかい年でなくなってしまうのはかなしいです。ぼくも頑張つてダイエット

頑張ります。岡本浩幸

▼もりかわさんと旅行たのしかった。もりかわさんとしごとたのしかった。さみしいです。くやしいです。もつと元気でいてほしかったです。

久保田昇子

▼8年間ありがとう。

河原幸恵

▼森川さんぼくとサッカーしたね。ぼくのおとうとじゅん。じゅん会いたい。もどつてこれならつどいであそぼ。

杉岡慎也

▼森川さんへ。なくなつてしまいわたしのことわすれないでください。中村知子

▼森川、ポルトがんばつたね。はかりがんばつたね。はこつくりがんばつたね。旅行みんなと一緒にいったね。

平野正彦

▼集のメンバー森川さん8年間お疲れさまでした。安らかに眠りください。

松本弘明

▼8年間ありがとう。ございました。はじめはぼっちゃり太つていたので公園でサ

ッカーをして走つてたのが思い出です。森川さんはいつもホワイトボードを夕方終礼前に消してましたけどいなくなると消す人がいなくなりまして。藤田邦彦

▼突然な事故での別れとなり、今も心が浮いている感じ。一緒に集で過ごし、半年後くらいに唐突に「シマちゃん」と呼ばれ思わず笑つてしまいとてもなごやかな気持ちになりました。ありがとうございます。ご冥福を心からお祈り致します。島村

▼突然のお別れでも悲しい日々を送っています。森川さんとは本当にたくさんのお思い出があり私の宝物です。森川さんありがとう。ご冥福を心からお祈りいたします。

松岡

▼あまりの突然の事すぎて今でも「本当なのか」という感覚で集です。周りの利用者さんの様子、仕事の進め方、感染症予防を含めた健康管理への意識がとても強く、決して他人の悪口を言わない森川さんでした。ご冥福をお祈りいたします。

佐々木



グループホーム旅行



今年のグループホーム旅行は昨年同様、コロナ禍にあつて、利用者さんには感染予防対策として、宿泊は控えてもらい、職員と一緒に日帰り旅行を企画しました。

それぞれヘルパーと2人で、または利用者さん2人とヘルパー2人の4人での日帰り旅行を実施。それぞれ限られた時間の中、自分の趣味や、これまで行つてみたかったところなど、いつもと違う非日常を体験され、皆さんいきいきとした表情で日帰り旅行を楽しみました。

旅行が大好きなAさんとBさんは、大阪から高速バスで鳴門海峡を訪れ、遊覧船に乗り、鳴門名物の渦潮を間近で鑑賞。

鉄道が趣味のCさんは名古屋まで新幹線で行き、帰りは近鉄電車の特急・ひのとりで大阪まで帰って来る鉄道旅行を満喫。

温泉で体を癒したかったDさんは新石切まで電車で出かけ、お昼に和牛料理のランチに舌鼓をうち、食後はゆったりと温泉に浸かり、大満足されました。

本来はゆっくりと一泊したいところですが、今年ができる限りの範囲で楽しめる旅行になりました。利用者さんにとつても、コロナ禍で巣ごもりになり、たまつたストレスを発散させるよい機会になったと思います。
(濱野)

職員紹介

西川 大之 (む・メゾン)

一昨年10月末に入職して1年少し経ちます。毎日違うパンダナを頭に巻き、ゆつくりした優しい口調で利用者さんの支援をしています。

大学卒業後33年製造業の仕事をし、「福祉の世界はどんなんやろう? 直接人と接してみたい。やってみよう!!」と転職を決意したそうです。

前職では責任のある立場で、品質管理に対し厳しく怒ることも多かった様ですが、「今は怒ることは無い」と話します。

休みの日は、趣味のソロキャンプに泊りがけで出掛け、一人の時間を満喫しているそうです。

今後マイペースでやっついこうと思つていまして話してくれました。

平井 りか (む・サンリット)

一昨年4月に入職しておよそ1年半経ちます。福祉の現場は未経験からのスタートのようですが、持ち前の明るいキャラクターで利用者さんのお話もよく盛り上がっています。

そんな彼女の趣味は、同級生と楽しむハイキングや山登り。でも、反省会と称した飲み会がメインになっているとか。好きな食べ物、を聞くと、ナマコやどて煮、ハモチりなど、お酒にも合います。うなメニューが挙がっていました。

「ふとしたキツカケでこの仕事に出会えた」と話す彼女は、いろいろな経験を重ねながら日々の支援に奮闘しています。

(高橋・福浦)

編集後記

▼ある日の我が家の会話。母「これ食べる?」息子「いらん」。違う質問の時の返答は「しらん」と素っ気ない事が多い。もつと長い会話をしたいと願う母は作戦を考えた。▼会話の後に聞えよがしに「いらん・しらん、で最後が「ん」やから、しりとりしたら勝てるわ」と伏線を張つてみた。▼後日、母「みかん食べる?」息子「ぎらい」。やつと「ん」で終わらない言葉で返答して来た息子は負けず嫌いかも知れないが、ちゃんと母の伏線に伝えてくれた。長い会話の作戦は失敗だが「いらん」理由が分かったので、今回はよしとしよう。▼直接支援をしていない私は利用者さんとの会話の中で、返答の意味を想像しづらい時がある。その時は伏線などの手法を使って理由探しをしてみたいと思う。上手くいけば理由が分かるかも知れない。
(S)